

## 内藤 礼

すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している

Naito Rei : Tout animal est dans le monde comme de l' eau à l' intérieur de l' eau.



[1] 《精霊》2006年 courtesy: ギャラリー小柳 /photo: 畠山直哉

会 期：2009年11月14日（土）—2010年1月24日（日）

会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-1-53 tel: 0467- 22- 5000

休 館 日：月曜日（11月23日、1月11日は開館）、

11月24日（火）、12月24日（木）、

12月28日（月）～1月4日（月）、1月12日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観 覧 料：一般700円（600円） 20歳未満と学生550円（450円）

65歳以上350円 高校生100円

※（ ）内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者の方は無料です。

主 催：神奈川県立近代美術館

協 賛：SHISEIDO

ファミリー・コミュニケーションの日：

毎月第1日曜日（今回は12月6日）は、18歳未満または高校生以下のお子様連れのご家族は、全員無料でご観覧いただけます。

### 【関連企画】

内藤礼氏によるアーティストトーク：2010年1月11日（月/祝）

担当学芸員によるギャラリートーク：2009年11月23日（月/祝）

12月6日（日）

2010年1月17日（日）

各回午後2時より 申込不要、参加無料  
（ただし「内藤礼」展の観覧券が必要です）

空間を満たす光、空気の揺らぎ、周囲の音——造形を取り巻く要素を作品の場へと呼びこむ、現代日本を代表するアーティストのひとり、内藤礼（1961-）。1980年代の後半から、「地上の生と世界との連続性」をテーマに、糸や布といった繊細な素材と、光や水などの自然の要素を、ひそやかな、それでいて確かな存在感を放つかたちに昇華させてきた彼女の作品は、国内外で静かな熱狂を呼んできました。

今回の個展は、ジョルジュ・バタイユが『宗教の理論』に記した一節をタイトルとし、内藤礼が、鶴岡八幡宮境内のモダニズム建築として名高い神奈川県立近代美術館の鎌倉館に、新作を中心とするインスタレーションを行うものです。

展示室の閉ざされた空間と、館外の自然が交錯する中庭や彫刻室。鎌倉館独自の環境に置かれた作品群には順路が定められていません。その作品は、建物と屋外を巡るひとりひとりの時間のなかで、かつてあった／未だ生まれざる世界の記憶を呼び起こし、見る人の生の時間と交感することでしょう。自然そのものを素材にする近年の仕事に加え、10年以上の時を経て電球光がふたたび取り上げられて、本展での制作が、これまでの時間を遡りながら、同時に新しい段階への移行を告げるものとなることを予感させます。

「水の中に水があるように」。世界と等質な全体性の奪回を希求する内藤礼が、鎌倉館にどのような作品を生み出し、また作品を媒介にどのような世界とのつながりを示してくれるのか、大きな期待が寄せられています。

[タイトル出典：ジョルジュ・バタイユ『宗教の理論』湯浅博雄訳/人文書院1985/ちくま学芸文庫2002、内藤礼により一部変更]

内藤 礼（ないとう れい）：1961年 広島に生まれる。1985年 武蔵野美術大学卒業。

主な個展に《地上にひとつの場所を》（1997/ 第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館）。

パーマネント作品として、《このことを》（2001/ 直島・家プロジェクト・きんざー ベネッセ

アートサイト直島）がある。

[2]《タマ／アニマ（わたしに息を吹きかけてください）》2006年

[3]《無題（母型）》2008年

[4]《無題（母型）》2008年

[5]《無題（母型）》2008年

\*クレジットはすべて「courtesy: ギャラリー小柳 / photo: 畠山直哉」



[2]



[3]



[4]



[5]

#### 【広報用画像について】

9月後半より、新作の画像をご提供できる予定です。詳細はお問い合わせください。

#### 【図録について】

本展は新規制作のインスタレーションとなるため、撮り下ろしの会場写真を収録した展覧会図録の販売開始は11月下旬を予定しております。11月14日の展覧会開始より2週間ほどの間は、予約販売（送料をご負担いただきます）となりますことをご了承ください。

■お問い合わせ先 神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-1-53 tel.0467-22-5000 fax.0467-23-2464

広報担当：山内舞子、土居由美 展覧会担当：水沢勉、三本松倫代、朝木由香

■展覧会情報は、美術館ホームページでも  
ご覧いただけます。

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>